



舞踏するクマ

編集月旦 2013年2月号

★「成熟」した姿を示す「モノ・居場所・しくみ・暮らしぶり」が水玉模様のように重なって広がる「日本長寿社会」。web「月刊丈風」は、「人生90(65+25)年時代」の日また一日を、現役シニアとして多様に暮らしているみなさんをつなぐ、小さいけれど強固な情報拠点です。

★「超高齢時代」に五年の反省期をへて再び総理になった安倍晋三さん(58歳)。「経済全体のパイ」を支えて大きくする「高齢者参加」という反省には至らなかったようです。☆国民の活力という、若年層の「成長」力に短絡してしまうのが旧来の思考。増えつづける高年者層の「成熟」力によって新たに形成される経済社会を構想するには、多重型の新思考が必要です。「日本長寿社会」は「三世代多重型社会」なのでですから。

☆「平成萎縮(イノベーション)」からの脱出を掲げた安倍政権の「金融・財政・成長」(三本の矢)政策は、日本政治の側の強い意志を海外に発信しました。円安・株高に示される国際評価(アベノミクス効果)については、本誌の理解では、①かつてない「天災人禍」にも沈着に対応し、その間もアジア途上諸国の近代化(暮らしの豊かさの共有)に技術・人材・資金を投じて“苦闘”している日本国民に対する評価、②戦禍から立ち上がって貧・富をともにしながら働いて暮らしを豊かにし、半世紀余にわたる平和を堅持してきた日本に対する評価、③平等と平和維持への評価などが合わせ表現された敬意と期待への時価評価であると推察しています。成長戦略をしくじると財政巨大赤字・企業収益格差・国民世代不和によって自力浮揚の方途を失うでしょう。「平成萎縮」からの脱出として国際的な成功事例として期待されているのが、「日本長寿社会=高齢社会=三世代多重型社会」の達成です。水玉模様のように重なって広がる「地域高齢社会」の形成です。

☆「人」の活力による改革を訴えて政権についた民主党は、支えた高齢者層に参加を呼びかけませんでした。党綱領(案)に「多様性を認めつつ互いに支え合い、すべての人に居場所と出番がある共生社会をつくる」という民主党再建に期待し提言します。

★参議院から衆議院に移ったあと「改革の新党」とともに労苦を重ねつづけた藤井裕久さん(80歳)、昵懇である尾崎美千生さん(毎日新聞政治部OB)とお訪ねした。「自由人になったからといって何もしないことはありません」といわれる。

★本誌では新たな時代の内容を盛るために、新たなことば(器)を用いています。

「日本長寿社会」のパラダイムシフト

20世紀後半期の社会

- ・「人生65年時代」 →
- ・「二世世代+α型」社会 →
- ・支えられる高齢者・老人 →
- ・少子・高齢化社会 →
- ・団塊世代(昭和22~24年生) →
- ・青少年期に能力養成 →
- ・生涯学習 →
- ・国土の均衡ある発展 →
- ・標準家族・一人暮らし高齢者 →
- ・還暦・古希・喜寿・傘寿 →
- ・米寿・白寿・余生・

(編集人・堀 亜起良 堀内正範 記)

21世紀初頭の社会

- ・「人生90年時代」(65+25年人生)
- ・「三世代多重型」社会
- ・支える側の高齢者・現役シニア(丈人)
- ・高齢社会・長寿社会
- ・平和団塊世代(昭和21~25年生)
- ・高齢初期(60~65歳)に2回目の能力養成
- ・地域大学校
- (とともに)・個性ある地域の発展
- ・近居・三世代同居
- ・自立・参加・ケア・自己実現・尊厳

(国連「高齢者五原則」)